



SPECIAL

INTERVIEW 00

野々田万照 Mantell Nonoda

夢はカーネギーホール！?
岐阜市のレジデントビッグバンド「楽市JAZZ楽団」をけん引。

野々田万照氏が率いる楽市JAZZ楽団は岐阜市のレジデントビッグバンドで、2008年に結成されました。メンバーをオーディションで選出し、3チームに分けて活動しており、幅広い年代で構成されています。学校や地域行事での演奏にも取り組むバンドの、最大の見せ場が「ぎふジャズフェスティバル」です。

—— 野々田さんご自身の現在の音楽活動の様子をお聞かせください。

現在はサクソ奏者として熱帯JAZZ楽団や高橋真梨子さんのサポートバンドに在籍しております。自身3枚目のオリジナルバムの制作中でもあります。年内リリースを予定しております。

—— 「楽市JAZZ楽団」は結成12年目となります。野々田さんの故郷である岐阜市の、2つのホールを拠点としたレジデントバンドですね。

結成当初、岐阜市にはジャズのビッグバンドどころかジャズバンドがほとんどなく、ジャズが決して盛んではありませんでした。そんな岐阜市に市民が主役のビッグバンドが作れたら盛り上がるだろうな、との思いがありました。

—— 「楽市JAZZ楽団」の活動の様子をお聞かせください。

楽市JAZZ楽団は3つのバンドから成り立っています。私が受け持つ「こーもらんつ16」と彌川先生が受け持つ「こーもらんつ23」と20才以下のメンバーで構成されたU-20。それぞれ練習は月1

回ですが、練習の他にも学校や岐阜市内の様々な施設、岐阜市文化センター開催のジャズ講座など、お客さんの前で演奏する機会も多くあります。そんな活動を11年間地道に続けてきた結果、所属団員の演奏技術はめざましく向上し、全国でもトップレベルではないかと自負しております。

—— 継続することのご苦勞ややり甲斐はどんなことでしょうか？

教える側すべての人に共通するいちばんの喜びはやはり教えられる側の成長です。しかしすぐに上達するわけではないのでやはり地道に継続することが大切かと思えます。

—— ビッグバンドの醍醐味とは？

なんといっても人数が多いことです。通常ジャズバンドは3人から5人程度ですがビッグバンドは20人近くになります。その分ゴージャスなサウンドになります。演奏する側にとっては大人数でのアンサンブルの醍醐味、聴く側にとってはゴージャスなサウンドが味わえる点が魅力かと思えます。

—— 結成以来、音楽監督として楽団を率いていらっしゃいま

す。今、楽団はどんな様子ですか？

私の音楽に対する根本的な考え方は音楽はやはり「娯楽=エンターテインメント」であって観客も演奏者自身も単純に楽しめなければ意味がないと思っています。現在の楽団は演奏技術もそうですが、個々がエンターテイナーとしての自覚を持ってライブパフォーマンスができるようになったと思います。

—— 来年1月に開催される「第12回 ぎふジャズフェスティバル」。毎回豪華ゲストが出演されますが、今回は神保彰さんということで一層楽しみですね。

神保彰さんは日本は元より世界で評価される著名なドラマーです。当日は「ワンマンオーケストラ」と言うタイトルで1人で素晴らしい音楽の世界を創造していただけますのでとても楽しみです。

—— この楽団の目指す目標や夢は？

「岐阜市に根付くジャズビッグバンド」と言う最初の目標はすでに達成できていると思います。次なる目標は全国のこのような市民ジャズビッグバンドと交流がしてみたいです。そして、最終的にはニューヨークのカーネギーホールの舞台上に立ちたい、それが夢です。

◎Interview&Text/□□□□

'20 1/19 SUNDAY [チケット発売中]

「第12回ぎふジャズフェスティバル」

■会場 / 岐阜市民会館 大ホール

■開演 / 14:00

■料金(税込) / [指定席(518席)] 一般¥2,800 学チケ¥1,400

[自由席・車いす席] 一般¥2,000 学チケ¥1,000

※当日各席¥500増 ※学チケは25歳以下の学生対象

■お問合せ / 岐阜市民会館 TEL.058-262-8111